

3-4 おから等地域資源を活用した植物性堆肥（平成有機農法研究会）

- 平成有機農法研究会は、県内豆腐製造業者の副産物である おから、製材所で発生する おがくず等を主原料とし、長期間堆積発酵させた植物性堆肥「ダイズユーキ」を製造。

■国内資源の種類 ■肥料の種類・肥料名称

- ・ おから
- ・ おがくず
- ・ きのか培地 等

- ・ 特殊肥料（堆肥）
- ・ 粉状（40ℓ 袋入り）
- ・ ダイズユーキ

■作物 ■主成分の含有量（%）、特徴等

- ・ 不問

N	P	K
1.2	2.4	0.7

- ・ 有機農産物JAS規格適合資材
- ・ 植物性原料のみ使用
- ・ 土づくり・元肥兼用

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

- ・ 製造者は果樹生産者であり、「土づくりにこだわった安全な農産物を生産したい」という思いから自ら堆肥製造を開始。家畜ふん堆肥ではなく、地域の未利用資源を利用した植物性堆肥の製造を目指した。

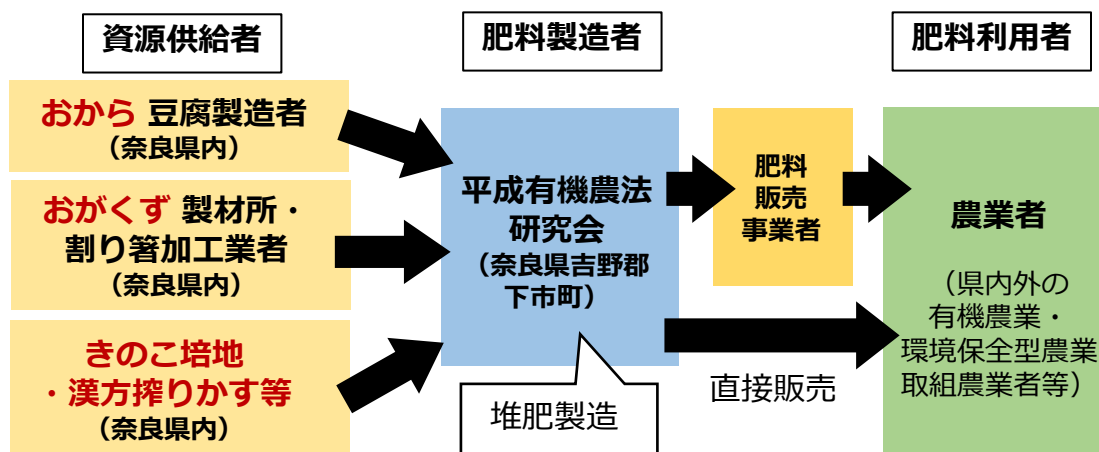
取組の内容

- ・ 県内の豆腐製造業者の副産物であるおからを主原料として試作したが、水分が多く腐敗しやすかったため、地域の製材所よりおがくずを調達し水分調整を行い、長期間発酵させることにより完熟化に成功した。
- ・ さらに、きのか生産者より収穫後の培地、漢方薬の搾りかすなど地域の未利用バイオマスを試行錯誤して配合し、高品質な植物性原料の堆肥を製品化した。

成果（見込み）

- ・ 100%植物性の有機農産物JAS規格適合資材として、県内外の有機農業者や特別栽培農産物生産者、環境保全型農業者からの需要が高い。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

- ・ 肥料価格高騰と環境保全型農業への転換傾向を受け、県外からの需要が急増。
- ・ 国内肥料資源活用総合支援事業により発酵槽及び乾燥場を増設、より高品質で軽量の堆肥の安定供給と製造量の増加を目指す。

